

農作物病害虫発生現況情報（7月） 水稻編

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率（発病葉率0.2%以上）は、4.7%（平年3.1%）であり、平年よりやや高かった（図1）。
- (2) 7月下旬の巡回調査（148圃場）では、県南部で発生圃場率が平年より高かった（図2）。

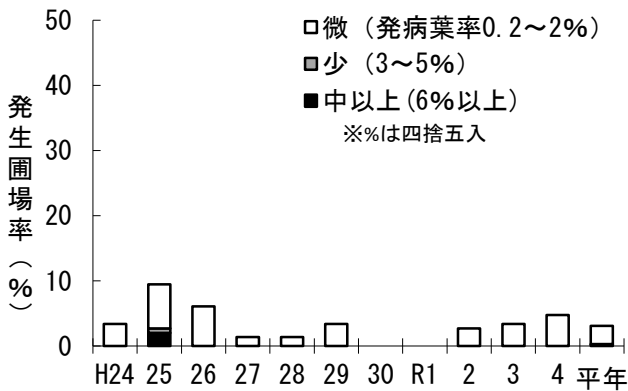


図1 葉いもち発生圃場率の年次推移（7月下旬）

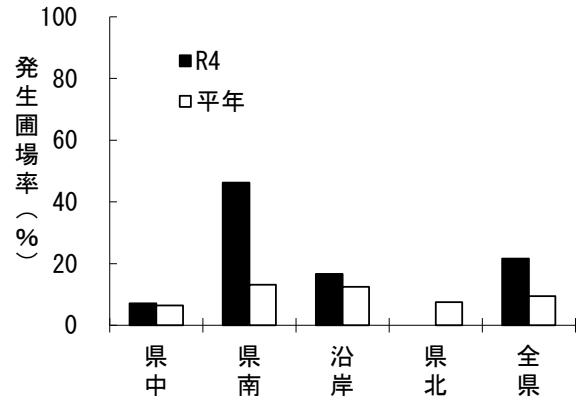


図2 葉いもち発生状況（7月下旬）

※100株調査で発病葉が認められた圃場率

2 紋枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、8.8%（平年18.6%）であり、平年より低かった（図3）。

3 ばか苗病

- (1) 7月上旬の巡回調査（148圃場）での発生圃場率は、6.8%（平年9.2%）であり、平年並だった（図4）。

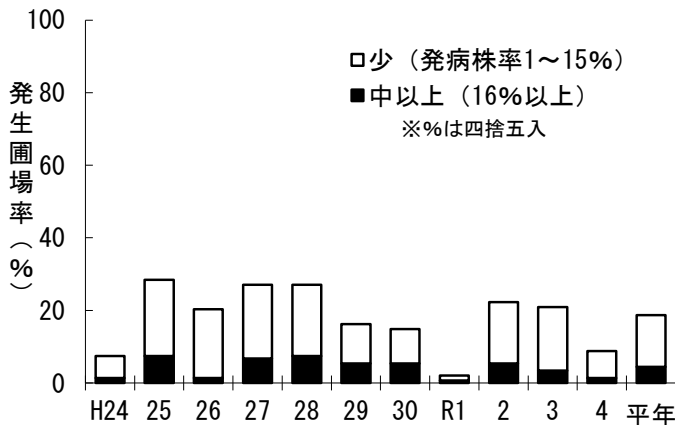


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移（7月下旬）

※病斑が第4葉鞘以下の発病を含む

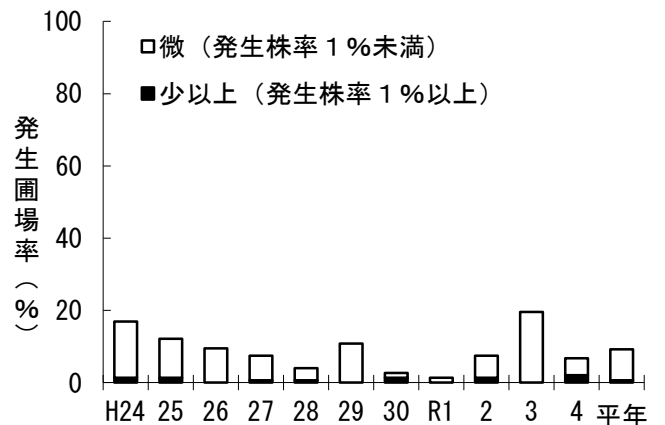


図4 ばか苗病発生圃場率の年次推移（7月上旬）

4 ごま葉枯病

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（データ省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）では、7月第5半旬にカスミカメムシ類幼虫のすくい取り頭数が増加した（図5）。
- (2) 7月下旬の水田畦畔におけるすくい取り調査（74圃場）では、発生圃場率は60.8%（平成46.6%）で平年よりやや高かったが、1地点当たりのすくい取り頭数は7.4頭（平成8.6頭）であり、平年並だった（図6）。
- (3) 特に、イネ科雑草が出穂している畦畔では、アカスジカスミカメ成虫がすくい取られている。

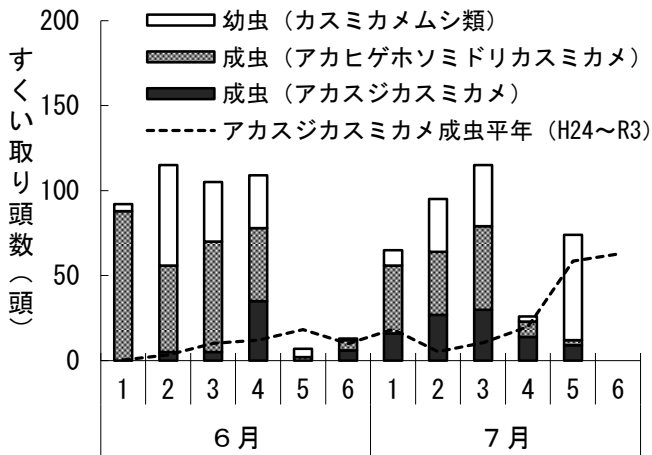


図5 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるカスミカメムシ類の発生推移（7月第5半旬現在、往復20回振）

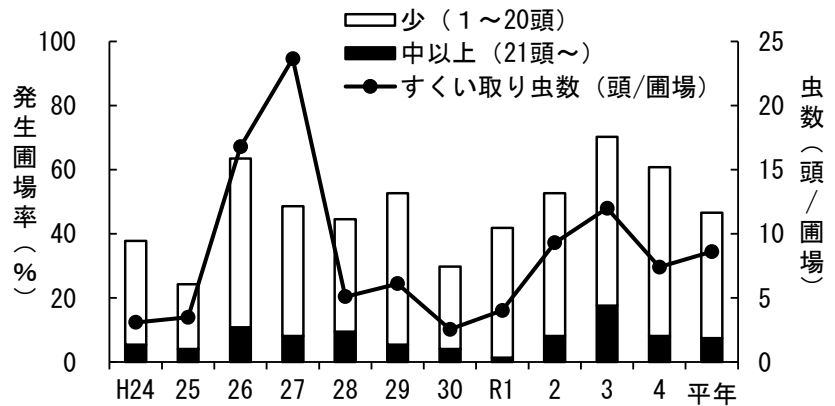
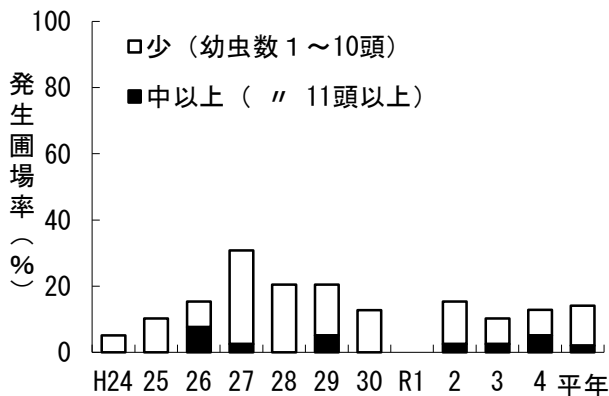


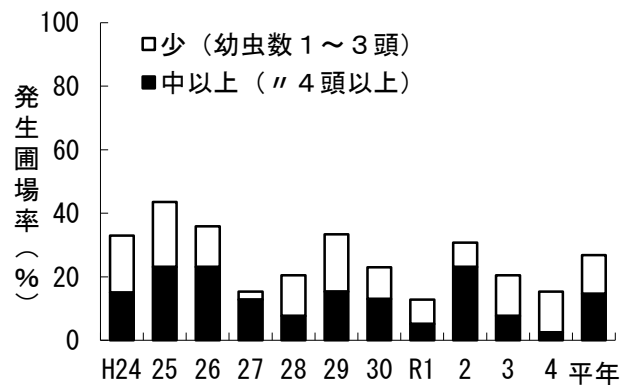
図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率の年次推移（7月下旬、水田畦畔すくい取り、往復20回振）

6 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- (1) 7月の本田すくい取り調査（39圃場）における第2世代幼虫の発生圃場率は、7月上旬は12.8%（平成14.1%）で平年並、7月下旬は15.4%（平成26.9%）で平年より低かった（図7）。



7月上旬



7月下旬

図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫の発生圃場率の年次推移（7月上下旬、本田すくい取り、往復20回振）

7 ウンカ類

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、セジロウンカの発生圃場率は2.6% (平年0.5%)、ヒメトビウンカの発生圃場率は10.3% (平年2.6%) であり、ともに平年より高かったが、発生程度の高い圃場は確認されなかった (図8)。

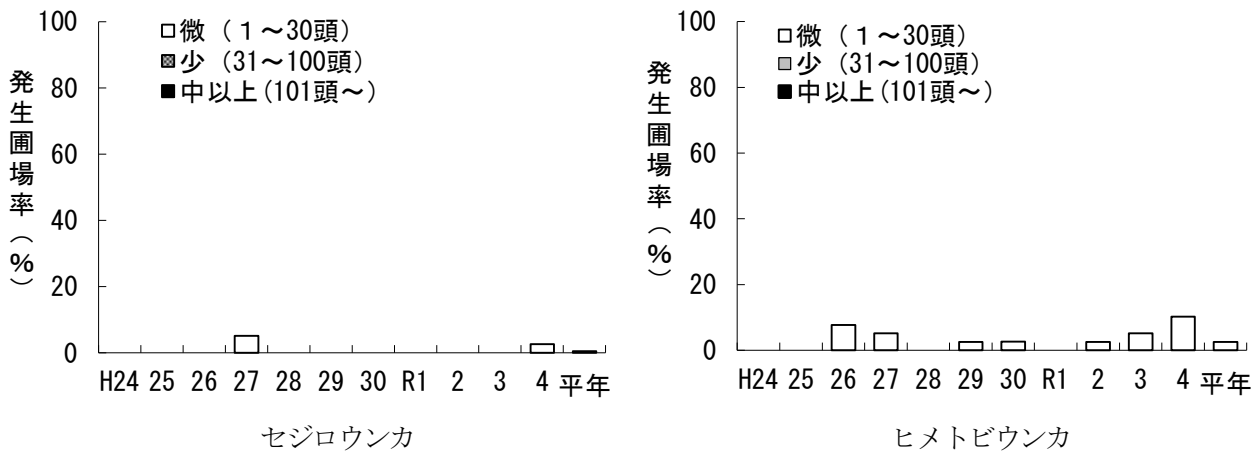


図8 ウンカ類の発生圃場率の年次推移
(7月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

8 コバネイナゴ

(1) 7月の本田すくい取り調査での発生圃場率は、7月上旬は66.7% (平年62.8%)、7月下旬は74.4% (平年75.2%) でともに平年並だった (図9)。

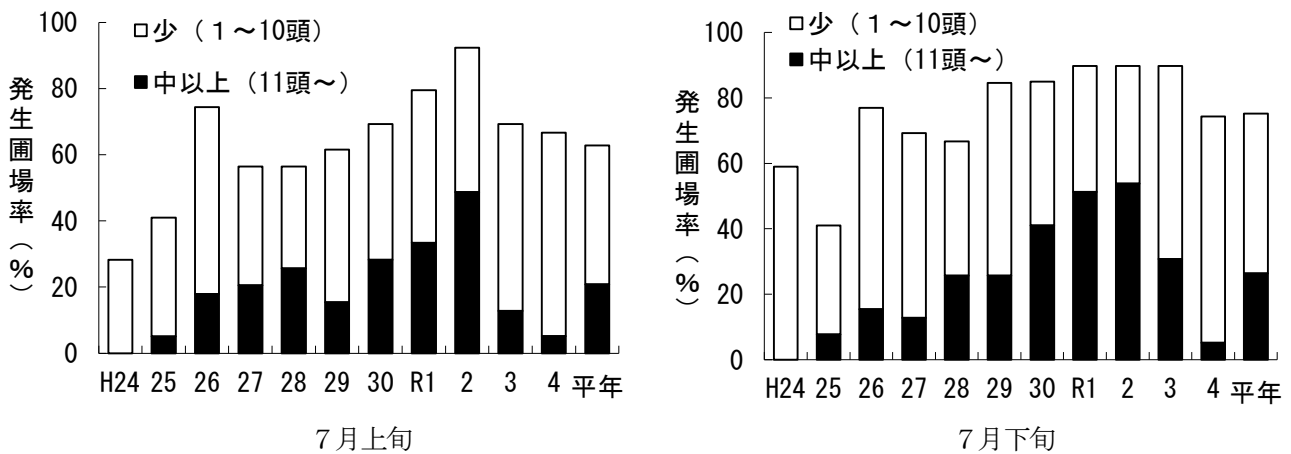


図9 コバネイナゴの発生圃場率の年次推移
(7月上旬、7月下旬、本田すくい取り、往復20回振)

9 ツマグロヨコバイ

(1) 7月下旬の本田すくい取り調査では、平年同様に発生は確認されなかった (データ省略)。